

「男→女→男」の私が言う 「性」は変えられない

「セックス・チェンジ・リグレット」主宰者 ウオルト・ヘイヤー

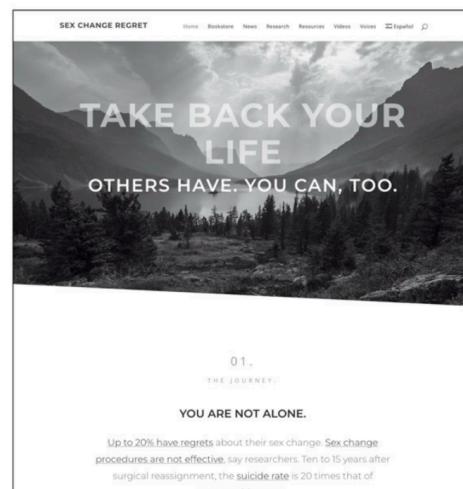
(聞き手 正論編集部)

四十二歳で性転換手術をして「女性」として八年間生きた後、

五十歳で「男性」に戻り、自身と同じように性転換を後悔している人などを支援する活動を行っている米国人がいる。ウォルト・ヘイヤー氏（八一）で、インターネットサイト「セックス・チャンジ・リグレット（Sex Change Regret）」（写真下）の主宰者だ。正論編集部はこのほど、米国在住

のヘイヤー氏にオンラインでインタビューした。

ヘイヤー氏は、性は生まれ持った永遠のもので、何をしても変えられないとして、性を「割り当てられた性」と捉えることを虚偽だと指摘する。その上で、生物学的性と、自分が感じる性が異なる「性同一性障害」の原因は「幼少期の有害な経験」にある。



るとして、必要なのは心理面での手当てであって、ホルモン治療や性転換手術は「現代最大の医療詐欺」と批判。まるで異なる性になれるかのような診断や治療などは、子供を産めなくして核家族の破壊を目指すマルクス主義の影響があると指摘する。

インタビュー内容を紹介する前に、ヘイヤー氏の経歴を紹介する。

ヘイヤー氏は、四歳の頃、子守をしてくれていたお針子だった祖母から、女の子の洋服を着せられ、「かわいい」とべた褒めされるうちに、女の子になりたいと思うようになる。二年後、洋服ダンスにしまっていた祖母が縫った紫色のシフォンのドレスを母親が発見。息子が女の子の服を着ることに衝撃を受けた父親は、息子を

しかし、精神的な苦痛は終わらなかつた。

カリフオルニア大学サンタクルーズ校で心理学を勉強しながら、あることに気付く。自分自身を異なる性だと思う人は、うつや双極性障害（躁うつ病）など診断未確定で未治療の障害を抱えている

ということに。自身の「幼少期の有害な経験（Adverse Childhood

「矯正」しようと暴力を振るいうになる。さらに、七歳になると、ドレスのことを知った叔父から性的虐待を受けるよう。両親に叔父にされたことを伝えたが、「嘘だ」と「蹴され、虐待のこと」を誰にも言えずに成人。結婚して子供を一人授かる。キャリアも順調で、アメリカ航空宇宙局（NASA）を経て、米国ホンダで重役にまで昇り詰める。

だが、その後も女性の衣服を着たい、女性になりたいという思いを捨てきれず精神的に追い詰められ、アルコールや薬物に依存するようになる。著名な医師に「性同一性障害」と診断され、ホルモン治療と性別適合手術を勧められる。妻から離婚されたものの、四十二歳で手術を受けて女性、ローラ・ジエンセン（写真）になる。



Experiences = A C E)」が問題の原因であることを認識し、カウンセリングなどで向き合い続けた末、女性になりたいと思わなくな

り、五十歳で再手術を受けて男性に戻った。

著書七冊を持つ。自身の過去をすべて受け入れて結婚した新たな妻とは近々、結婚二十五周年を迎える。サイト「セックス・チャン

ジ・リグレット」の運営・管理は妻の専門だ



ウォルト・ヘイヤー氏

という。過去七年間でサイ

ト閲覧は二百万件以上で、

世界中から寄せられた相談などのメールは一万通を超える。

以下、インタビューの詳報を紹介する。

——なぜサイトを立ち上げようと思つたのか。

ヘイヤー いわゆる「性別移行(transition)」を私が経験してわかった事実は、誰一人として男性から女性に移行することはできないことだ。生物学的に、医学的に、科学的に可能ではない。性別移行」という用語は、誰かのジェンダーを変えることによつて事を成し遂げたかのように思われるが、嘘だ。人類史上、手術も医師も男性を女性に変えたことはない。できることは、外見を変えることだけ。それは「ペルソナ(仮面)」だ。

私はこのことに気付き、再び性別適合手術をした(de-transition)。私がウェブサイトを立ち上げたのは、私のような体験をした人の話を聞いたことがなかつたので、他の人も性別移行を後悔しているのかどうか知りたかったからだ。実際、サイトを始めたたら多くの人から問い合わせがあり、これまで私と同じように悩み苦しみ、性別移行を後悔した数千人を支援してきた。また、私のように再び手術をした人もいる。サイトは、真実の情報を伝え、ホルモン剤投与や手術によつて傷ついた人たちを助けている。

——相談してきた人たちの五割が幼少期に性的虐待を受けていたと話しているが。

ヘイヤー そうだ。これはちゃんと記事に書いてもらいたいが、こ

の十二年間で私に連絡してきた人たちの全員が「幼少期の有害な経験(ACE)」を抱えていた。肉体的虐待、精神的虐待、性的虐待があるが、性的虐待を受けた人が半数だった。彼らの多くは、アルコール依存症または薬物依存症をはつ親のいる家で暮らし、安全ではない環境に置かれることで精神的に傷ついていた。問題は幼少期の有害な経験であつて、「性同一性障害(gender dysphoria)」ではないから、この用語も嘘だ。彼らはジェンダー・セラピストにいく必要はない、必要なのはトラウマ(心的外傷)のセラピストなのだ。

サイトで相談を受ける際、その人の人生について話を詳しく聞くと、虐待を受けていたことが明かされる。そこで、私たちは適切なセラピストを紹介することをやつ

ている。ジェンダー・セラピストのように「あなたは女性になれますよ」なんてことは言わない。そして、我々は表面化していない併存する問題に対する支援を行う。併存する問題とは、うつ病や強迫性障害が代表的だが、そのほかには双極性障害もある。彼らが自分の身体を嫌つてることから、ジエンダー・セラピストは「性転換すればいい」という。だが、問題はもっと深い精神的なものだから、身体の一部を切除してホルモン治療をすればいいという話ではない。

——米国ほど精神科医の多い国はほかにないと思うが、それでも問題の根本原因である心的外傷への対応が適切になされていないといふことか。

ヘイヤー 「性同一性障害(gender identity disorder)」ではなく、「性別違和症候群(gender dysphoria)」になった。しかし性別違和症候群になつた。しかし性別違和症候群も、しつかりみていけば精神的苦痛など精神的なものが原因だ。にもかかわらず、対応はやはりホルモン治療と性別適合手術になつている。

——障害を意味する「disorder」を変えただけで、聞き心地をよくした言葉にしただけのようだ。

ヘイヤー その通り。結局、性は

DNAで決まっているから、誰も性を変えることができないし、変える必要がないのに、ホルモン治療や手術を勧められる。私はこれを「現代最大の医療詐欺」と呼んでいる。

危険な「性の自己決定権」

——親が産まれてくる赤ちゃんについて、どちらかの性別を望むことはよくあるが、実際に希望とは異なる性別であることがある。これは子供の精神に影響を与えるか。

——「イヤー　与えると思う。親が子供に『あなたが男の子だったら』、または『女の子だつたら』ということは、幼児虐待であり、絶対に容認してはならない。大した問題ではないと思うだろうが、まさにこれが私に起きたことだ。私の苦

しみは、四歳の時に祖母が私に女の子の洋服を着せたことから始まり、私は八十一歳になつたいまもこの苦しみを話している。それほどの大問題なのだ。私の人生は壊され、日系企業での素晴らしいキャリアと高額収入も失った。大した害がないと思うかもしれないが、人の人生の破壊につながる。だから、ほかの人が私のような完全に異常な経験をしないよう私は一生懸命、事実を伝えようとしている。

——日本では、学校教育への「包括的性教育」なるものの導入が問題化している。「性的自立」を強調する性教育は、自分の性は社会のなかでできたものに過ぎず、生まれつきであることを否定する。さらに、自分の性は自分で決めることができるという。

——イヤー　これも恐ろしい嘘の一つだ。精子と卵子がぶつかった時点で性別は決まるのに、いまや何でも変えられる、何でもできる、欲しいものは何でも手に入ると教育している。だが、繰り返すが、その過程は人生を壊す、自己破壊的な行動だ。異なる性になるためには、いまの自分を壊さなければいけない。それが示す通り、トランジエンダリズムは最も自己破壊的なことなのだ。そういう行為をとる人は精神的に健全ではない。問題を抱えているのだ。健全であれば自傷行為をしない。

——ホルモン摂取もそうだ。ホルモン剤はタンパク同化ステロイドで中毒性の強い薬物だ。人々が依存症となるため、ジエンダーの診療所は薬物診療所になつてしまふ。私自身が依存症になつたから、よ

くわかっている。

「LGBT」から「T」を抜け

——イヤー　十七年前にメディアに投稿したが、私は当時から「LGBTからTを外す時だ」と主張していた。重要なことは、私が支援してきた人たちのうち、九割の人々が異性愛男性だったことだ。私自身、そうだった。つまり、彼らの苦悩は彼らがホモセクシュアルだからではない。何度も言うが、彼らが苦しんでいるのはACEで、自分がことが嫌いになつていていただ。

——あなたのお話を聞いて、性教育を見直す国もあると聞いたが。

——イヤー　講演などの依頼は世界から寄せられている。新型コロナウイルスが広がる前は海外に頻繁に行っていた。なぜか日本だけが

まだないが。そして、私が訪問して話をした後、考え方を見直す国もある。例えばイスラエルの研究は前進したり後退したり、賛成だったこともあれば、反対だったこともある。だが、最終的には、子供へのホルモン治療は有害で長期的にもメリットがないと認識したようだ。

——我々がわかっているのは、苦しんでいる人へのホルモン治療と手術は少なくとも二十四歳になるまで勧めるべきではないということだ。なぜなら、脳が完全に発達した段階でないと、その後の影響はどうなるか理解できないからだ。

——五歳や六歳、または十二歳の子供が、治療を受けてどうなるかわかるわけがない。

——一つ例を紹介しよう。私が支援した男性は、十五歳の時に親の勧

めでホルモン剤を投与され、十八歳で手術を受け、性別移行した。十九歳になつて私のもとに相談にきたが、手術を受けたことを後悔しており、自分がフランケンシュタインみたいに感じると言つていた。彼の場合は、十五歳でポルノ中毒になり、自分が誰かさえわからなくなり、ついには女性と自身の区別がつかなくなつた。壊れてしまつた。若くして身体の一部を切除し、もう女でいたくないというので、一年後に元に戻つた。ポルノはACEと同じぐらいに脳を破壊することを理解しておく必要がある。

——病院やクリニックで診察を受ければ、性別移行を勧められることが多いということか。

——イヤー　トランジエンダーの人は、自分の感じる性と、生物学

産経新聞出版の雑誌です



文字の大きさNo.1! 40代からのテレビマガジン
BS・CS 4K 8K 見やすい番組表 85局掲載
地上波・番組表 デジタル
4K 8K 番組表対応
ナビ
春の新番組 大ボリューム号
4月1日発売
地 上波、BS、CS、4K、8K、見やすい番組表
「おどなの」デジタルTVナビ 5月号
好評発売中!
ひと目でわかるキャラ 相関図付き!
文字の大きさNo.1!
40代からの大人のテレビマガジン
地 上波、BS、CS、4K、8K、見やすい番組表
「おどなの」デジタルTVナビ 5月号
好評発売中!

春の新ドラマ 完全ガイド!

春の新番組 大ボリューム号

定期購読のお申し込みは
0120-223-223

特別定価520円(税込)

夫婦で、家族で、独りで、いつか迎える「その時」を考える

終活
読本 ソナエ Vol.36
2022年春号
4月5日発売
定価970円(税込)

〈特集予告〉これからの終活

- お墓が変わる 自分らしさの追求
- コロナ後の葬儀 増える「弔い直し」ほか

的な性が一致しないと感じてお
り、医者など周辺の人たちからそ
の思い込みを支持されることによ
つて、生まれつきの性をさらに強
く否定するようになり、ホルモン
治療や手術に向かう。ホルモン治
療や手術を勧める医者はLGBT
ロビーから大金をもらっているか
ら、治療が成功しようがしまいが
関係ない。どんなに彼ら自身が有
害であるかについても無関心だ。
唯一関心があることは、ホルモン
剤を投与し、手術をやって金を稼
ぐことだ。そうやつて彼らは家族
を壊し、社会を壊している。いま
起こっているのは、何代にもわた
って子供たちは明らかに虚偽情報
によって破壊されていることだ。
眞実は、誰も性を変えることはで
きない。無理なのだ。なのに、どう
して科学や医学を理解する聰明

な人たちがそれをわからないの
か。せめて、医者におかしな医療
行為を禁じる法律を作るべきだ。
聰明な人たちがわかつていないと
理由を私はわかった。それは、こ
のイデオロギーを推し進めること
によって利益を得ている人々がい
て、利益を得ている人こそ推し進
めている人々だということだ。私
は無料で人々を助けている。取材
も無料で応じてている。私は苦し
んでいる人を助けていただけだ。

—米社会の受け止めは。

ヘイヤー 反応は良い。本当に多
くの人が活動を応援してくれる
し、「声を上げてくれてありがと
う」「眞実を話す数少ない人だ」
「眞実を話し続けてもらいたい」
といった声が寄せられている。こ
ういう反応があるのは、私が眞実
を話しているからだ。LGBT団

体ももはや私には何も言ってこな
いし、邪魔もない。彼らは私が
正しいことを知っている。
—米政府の対応はどうか。
ヘイヤー 米政府はLGBTのた
めに資金集めをする。民主党なく
してLGBTは存在しない。LG
BTの資金はほとんどが左翼から
寄せられる。彼らの中で、家族に
価値観を置く人、人間がいかに自
然に成長するかといったことに関
心を持つ人はいない。本来であれ
ば、誰も成長のプロセスを壊した
くないし、若者の人生をめちゃく
ちゃにしたくない。聰明で、愛情
にあふれていれば、他人の身体の
パートを切除したくないはずだ。
それはフランケンシュタインがや
ることだ。人間がやることではな
い。マルクス主義の人たちがやつ
ても、残りの私たちにはやらない。